

第3号様式(第4関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	狩野明彦
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p>視察研修</p> <p>千葉県 市川市</p> <p>テーマ 通学路交通安全プログラムについて</p>		
2 実施結果に対する所感，意見等 (質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等)		
<p>今回のコロナ禍によりオンライン行政視察となったが、初めての事でもあり自分自身、なかなか要領を得なかったが取りあえず出来たことは一步前進であった。</p> <p>●通学路交通安全プログラム導入の経緯とプログラムの概要について</p> <p>調布市でも3年に一度の合同点検並びにホームページへの公開を行っているが、市川市では国や千葉県、私立学校などの関係者が参加されているのが素晴らしい。だが、地元の活動団体との連携は行っていない。</p> <p>●導入に伴う具体的な実績や成果について</p> <p>交通事故の件数等において導入効果が確認されると共に、国や県にも外環自動車道開通の際に、安全面で車止めポールを設置等の対応がなされており、国道のある調布市でも学校や関わりのある地域の方々、教育委員会などが連携して複数年働きかけていく必要を感じた。</p> <p>●学校防犯システム「ツイタもん」や子ども見守り端末「otta」といったICT機器との連携や今後の展開について</p> <p>電子タグの「ツイタもん」については、登下校の時間管理を記録するもので、登下校時のメール配信の有り無しが、有料・無料となっており、保護者の判断も分かれるところである。</p> <p>このような子ども見守り端末も数多くある中で、現在の位置まで把握できるGPS搭載のものとの多面的（価格、性能、安心度）な比較検討が必要。年齢や学校との通学距離による児童別の差も考えられることから選択制や自治体からの補助の検討も必要と思う。</p> <p>GPSに加え、ビーコンモジュール搭載の「otta」の実証実験についての詳細も聞けるとよかった。</p>		

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

○今後の課題として

児童の見守りシステムを導入している自治体は増えており、児童の安全と保護者の安心を担保する優れたものである。調布市も導入についての検討を進めると共に、児童に一人1台提供されるタブレット端末にGPS機能を搭載することで児童の見守りが可能になるか検証していくべきである。

また、今回市川市では聞かれなかったが、学校の安全に関して外部機関などによる検証も重要になる事から、セーフティプロモーションスクール（SPS）認証取得に対しての考え方についても検討する必要があると考える。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	岸本 直子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ） <b>千葉県市川市（通学路交通安全プログラム）についてオンライン視察                  2020年10月14日（水）午前10時より</b>		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>●文教委員会の所管事務調査で、子ども達を巻き込む事件や事案が多発している状況を踏まえ、調布市で子ども達の安全・安心を守る方策の構築を見据え、コロナ禍であったがオンラインと言う新しい方法により視察を実施した。</p> <p>●2012(H24)年全国的に児童生徒が死傷する事故が相次いで起こった事を受け、市川市では同年8月に各小学校の通学路において関係機関と協力し緊急合同点検を実施、必要な対策について協議を行った。これを具現化するために2014(H26)年度より各機関の連携体制を構築し「市川市通学路交通安全プログラム」を策定。</p> <p>「通学路安全推進協議会」をたちあげ、市教委だけでなく、道路交通部、警察、校長会連絡協議会、教頭会、PTA連絡協議会、首都国道事務所、県葛南土木事務所、市内の公立・私立学校、特別支援学校も加わり、定期的な合同点検を実施し、明らかになった対策が必要な箇所について歩道の整備や防護柵のようなハード面の改善と、交通規制、交通安全教育などのソフト面への対策など、整理を行い、関係機関間で現況を共有し、対応する方針をたて改善に努め、改善箇所や場所について小学校毎の対策一覧表、対策箇所図を公表している。</p> <p>地域の各関係機関が、こうした事業に協力するというのは、どの自治体でも行っているが、地方自治体関係以外の東京外環道を管理する首都国道事務所，県道を管理する千葉県葛南土木事務所が参加していることは、他市にはないとりくみであると思った。</p> <p>●合同点検の内容について</p> <p>自治体や教育機関、市川市の所管部署だけでなく、私立小学校、国や県の関係機関などの、市内に現存するあらゆる機関が、その壁を越</p>		

### 第3号様式（第4関係）

えて協力する体制をつくったことは先進的だと考える。

#### ●国との関係構築について

市川市では、外環道開通にあたり「これまで顔の見える関係を築いてきた」と説明があった。

地元から声を上げ改善してもらった事は評価するものの、いままで地元市の要望に国が協力するという場面に出あったことが少ないため、こうした関係になった背景にどんなことがあるのか知りたかったが、説明してくれた職員では担当外のため回答できず、後日の文書回答となった。

回答の文書によれば、協議会たちあげ当時の経緯は不明であるとのことであったが、現在でも市川市の担当者が国交省に出向き、市の安全協議会の進め方を説明、その後合同点検の結果を直接届け、関係をつくることに、複数年をかけてねばり強く努力していることがうかがえた。

本来なら、国はどんな事業を行うにも都道府県や地方自治体に協力してもらおう立場であるので、特に通学路にかかった自治体などには自ら出向いて注意喚起や対策を提案するぐらいすべきではないか…と思うが、しかし、市川市の担当者のねばり強い働きかけがが国を動かしたということになるのだろうと受け止めた。

今後、市内に住む子ども達の安全安心を考え方や党派の違いを超えて守るために何ができるのかを、今後も考えていきたい。

### 3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

文中で触れたとおり。

第3号様式(第4関係)

<p>視察等個別部分報告書</p>	<p>作成者氏名</p>	<p>大野 祐司</p>
<p>1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）</p>		
<p>文教委員会行政視察 「通学路交通安全プログラムについて」 千葉県市川市</p>		
<p>2 実施結果に対する所感，意見等 (質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等)</p>		
<p>今回の視察は、Web会議システム・ZOOMによるオンライン視察で、たづくり西館5階のWeb会議室でおこなわれた。</p> <p>平成24年、全国で登下校中の児童・生徒が死傷する事故が相次いで発生したことを受け、各小学校の通学路で関係機関連携のもと、緊急点検を実施。平成26年度「市川通学路交通安全プログラム」を策定、市内44校を4グループに分け4年に1回合同点検を実施している。取組は、関係機関（警察、教育委員会、市交通部局、外環関連の国道事務所など）が協力して対策にあたることに利点がある。</p> <p>また、防護柵などのハード面対策、交通規制や安全教育などのソフト面対策など、具体的な対策を実施していることも評価できる。</p> <p>調布市においても、PTA 連合会などを通じて危険箇所状況や改善要望はあがってくるが、市川市のように国道事務所などの関係機関を含めて合同で点検を実施するまでには至っていない。</p> <p>ICT 機器を使った児童見守りシステム「ツイタもん」は校門通過を記録、有料オプションで通過をメール配信するシステムだが、小学生の約6割が加入している。高学年になるにつれ加入率が下がるが、保護者としては安心できるものと評価します。GPS 機能を有する「otta」導入実験も実施しており、就学前児童や小学校低学年児童には有効と考える。</p>		
<p>3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）</p>		
<p>調布市でも、通学路点検を関係機関合同で実施し、より安全対策を講じることの必要性を感じた。また、就学前児童、小学校低学年を中心にツイタもんや otta などの導入も検討してはと考える。</p>		

視察等個別部分報告書	作成者氏名	川畑英樹
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
令和2年 調布市議会文教委員会オンラインによる行政視察 「千葉県市川市・通学路交通安全プログラムについて」 令和2年10月14日（水）10時～		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>                     コロナ禍の中であるため、全国で行政視察が自主的に取りやめになっている。そのような中で今回オンラインにより千葉県市川市と行政視察が実現できたことは、大変有意義であった。                 </p> <p>                     平成24年、全国で登下校時に児童生徒が死傷する事故が相次いでいることから、平成24年8月に各小学校の通学路において関係機関と連携し緊急合同点検を実施し、引き続き児童生徒の安全確保の取組を継続するため、平成26年度より「市川市通学路交通安全プログラム」を策定した。「通学路安全推進協議会」を教育委員会、道路所管部署、警察・校長・教頭会、PTA、首都国道事務所、土木事務所など、広範な関係機関を巻き込んで設置した事で、実効性があるプログラムになったことは大きい。市川市内の小学校を4グループに分け、それぞれ4年に1回合同点検を実施、PDCAサイクルを用いて効果的に行い、検証している。これは児童生徒を犯罪から守る強い意思を感じる施策である。青色防犯パトロールは、調布でも行っており広範囲にパトロールを行うことで、犯罪に対し一定の抑止力が期待できる政策である。平成30年9月から毎週木曜に、ネットパトロールを実施し、インターネットによるいじめ、非行犯罪などから子供たちを見守る活動を行っていることについては、地域性はあるが意義ある活動であると感じる。学校防犯システム「ツイタもん」は、今後GPS機能を付加させ展開とある。調布市としても、調査検討すべきである。                 </p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
全て文中に記載。		

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	須山妙子
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p style="text-align: center;">千葉県 市川市</p> <p style="text-align: center;">「通学路交通安全プログラムについて」</p>		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>コロナ禍での、初めてのオンラインによる視察を受け入れてくださった市川市に感謝を申し上げたい。</p> <p>平成 24 年に登下校中の児童生徒が死傷する事故が相次ぎ、全国の自治体が対応を迫られる中、市川市はいち早く「通学路交通安全プログラム」を策定している。</p> <p>調布市として参考にしたい 1 点目は、推進協議会のメンバーに道路管理者である国道事務所や県土木事務所を迎え、定期的な合同点検を実施していることだ。調布市にも国道や都道があり、安全のための素早い対応には同様の取り組みが有効だと考えられる。</p> <p>2 点目は、ICT 機器を活用した見守りである。子どもが端末を持つことで保護者は子どもの居場所が確認できる。数あるメリットの一つに携帯電話が不要になる点が挙げられていた。携帯電話から犯罪に巻き込まれる例が多発している。安否確認の手段が選択できるのはより安全、安心につながる取り組みである。わが市でも今後検討をしていくべき課題であると考えます。</p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
上記		

第3号様式（第4関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	古川 陽菜
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
<p>オンラインによる行政視察</p> <p>千葉県市川市 「通学路交通安全プログラムについて」</p>		
<p>2 実施結果に対する所感，意見等</p> <p>（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）</p>		
<p>今回は新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて、オンライン会議システムを用いて千葉県市川市に行政視察を行い、教育委員会の保健体育課の方にお話を伺った。</p> <p>市川市の通学路交通安全プログラムにおいて、先進的であると感じたのは「市川市通学路交通安全プログラム」を策定し、東京外環道を管理する首都国道事務所や県道を管理する千葉県葛南土木事務所などを含む多くの関係機関をメンバーとした通学路安全推進協議会を設置した点と「ツイタもん」という児童の登下校時間を IC タグにより記録するシステムを取り入れている点である。ツイタもんに関して、保護者は利用料が有料か無料のものかを選べるが、有料会員にならないと児童の登下校時間を把握できないため、利用率は6割程度で、高学年になるにつれ児童に携帯を持たせる家庭も増え、利用率も下がっているとのことである。保護者からは GPS 機能が付いたものを求める声も上がっており、現在のシステムの機能の向上や経済面への市としての補助も前向きに検討して頂き、保護者が携帯を持たせなくとも子供を安心して学校に通わせることのできる環境を整えていくのがよいのではないかと考える。</p> <p>最後に、今回初めてオンラインで行政視察を行った感想であるが、時間をかけて出掛けなくとも簡単に日本全国の自治体に視察を行える一方で、顔を合わせることは異なり、初対面ではなかなか相手との距離感をつかむことも難しく、質問を掘り下げて聞くようなこともしづらいのではないかと感じた。</p>		
3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）		
<p>全て本文中に記載。</p>		



第3号様式(第4関係)

文教委員会 視察報告書	作成者氏名	宮本和実
1 視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
千葉県市川市 「通学路交通安全プログラムについて」		
2 実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		
<p>1. 通学路交通安全プログラムについて</p> <p>市川市では、H24年に市内各小学校の通学路において関係機関と連携し、緊急合同点検を実施。</p> <p>H26年に教育委員会・学校・PTA・警察・国交省管轄の首都国道事務所・千葉県管轄の葛南土木事務所と連携し「市川市通学路交通安全プログラム」を策定。</p> <p>この取組の特徴は、市内小学校44校を4つに分け4年周期で全校の合同点検を実施し、PDCAサイクルを活用し改善を図っていくことである。</p> <p>例として、H31年度は11校で26カ所の危険箇所が挙げられ検証の結果22カ所改善し効果が挙げられている。</p> <p>この取組で特筆すべき点は、市川市だけでなく県道や国道も市内に存在していることから、県や国にも連携を求めていることである。</p> <p>市内の国道に改善箇所が発生したときには国交省に足を運び要望する際にも効果があるようである。</p> <p>国や県との連携の経緯については、不明とのこと。</p> <p>我が市と異なる点は、地元の交通安全協会などとの連携は無いようである。</p> <p>2. 学校防犯システム「ツイタもん」について</p> <p>このシステムは、児童のランドセルにICタグを付け、児童が登下校の際に通過することで校内に設置されているセンサーが反応し、登下校の時刻が記録されるシステムである。また、有料オプションとして月400円で、その記録を保護者にメール配信することも出来る。</p> <p>利用率は1年生が67%で学年が上がるにつれ低くなり、6年生は</p>		

第3号様式(第4関係)

36%となっている。

今後は有効期限の5年間で終了した際に、内容の見直しと共に有料分を全額補助するかも検討することのこと。

保護者希望は、GPS機能を付け居場所確認出来るようにとの声が多いとのこと。

意外と利用率が少ないことに驚いたが、参考になる結果である。

デザイン性・機能性など様々な観点から検証が必要である。

大きく2点の視察をさせていただいたが、通学路の交通安全対策については複数部署の連携が必要であると実感した。

防犯システムについては、日々進化している現状を踏まえ対応する必要性を感じた。

3 その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

上記のとおり